

#手帳 #アセスメント #AI 活用 #高校生キャリア教育最前線

教員向け
セミナー

生徒の強みをどう伸ばす？ 効果的な面談・声かけのコツ —心理学とテクノロジーを活用した実践例—

開催日時：
2026年7月27日
14:00～16:00

河合塾
NOLTY プランナーズ

「指示する指導」から「引き出す対話」へ——生徒の強みを伸ばす 指導のアップデート

進路選択の多様化や社会構造の変化に伴い、従来の経験則だけでは、生徒の主体的な学びや進路選択を引き出す対応が難しくなってきています。本セミナーでは、「心理学(認知行動療法)」と「テクノロジー(多面的アセスメント・AI)」の2つの側面から、生徒一人ひとりの「なりたい」や「強み」を捉え、支援するための具体的なアプローチを探りました。

セミナー登壇者

【第一部】先生の悩みに答えます！ 生徒の「なりたい」を引き出す声かけ

中島 美鈴 氏 臨床心理士／公認心理師／心理学博士(九州大)

専門は認知行動療法。現在は九州大学大学院人間環境学府 学術協力研究員・肥前精神医療センター臨床研究部非常勤研究員。朝日新聞デジタルでの連載の他、NHK「クローズアップ現代」「あさイチ」等のメディア出演など多岐にわたり活躍中。

『悩み・不安・怒りを小さくするレッスン「認知行動療法」入門』(光文社)、『ADHD タイプの大人のための時間管理ワークブック』(星和書店)など著書多数。

認知行動療法や時間管理の知見をベースに、現場の先生方から寄せられた悩みに回答いただきました。

声かけ・教員の姿勢のポイント

面談の主役は生徒。教員は“審判”ではなく、問いを投げる“ファシリテーター”
自己肯定感の低さは過去の経験から来ている。過去と現在は違うことを感じさせる
高校生がやりたいことがないのは当たり前。好きなことを抽象化して仕事へつなげる
教員は無知の姿勢で「あなたのことは、あなたが一番知っているから教えて」



【第二部】アセスメント×AI ツールを活用した進路指導の実践

神奈川大学附属中・高等学校 中川 甲斐 先生・小林 直樹 先生

「学びみらい PASS」と「副担任 mirAI」を活用した指導基盤の構築と、AI を活用した志望理由書の言語化支援・面談の実践事例をご報告いただきました。

ご案内

河合塾高等学校向けプログラム
お問合せは担当営業部まで

学びみらいPASS

4つのアセスメントで「納得のいく未来づくり」を支援

PROG ジェネリックスキルを測る

Kei-SAT 教科学力を測る

R-CAP 興味・関心を測る

LEADS 学習状況・将来への意識を測る

●面談 生徒の多面的な特性把握

●キャリア教育・進路選択

●効果検証 探究学習、SSH

●ジェネリックスキルの育成

●調査書・ポートフォリオへの対応 高校生活を通じた成長の確認

※中学生版の「みらいPASS」もご用意しています。



↑河合塾 Kei-Net Plus
お問合せ先電話番号一覧

↓NOLTY プランナーズ
副担任 mirAI 詳細



NOLTY プランナーズ

副担任 mirAI について詳細は公式サイトをご確認ください

支援AIで進路・キャリア支援 「NOLTYスコア 副担任mirAI」

チャット形式で対話をしながら、これまでの経験やキャリア観など、**生徒の思考の深掘り**。その内容をもとに生徒自身で志望理由書を作成していきます。



AIが先生の
代わりに
生徒の考えを
引き出す

AIが生徒の
代わりに
志望理由を作る



生徒の志望理由書の作成を支援し、面談の質を上げて先生の添削作業の軽減を狙います。

先生の悩みに答えます！生徒の「なりたい」を引き出す声かけ

中島 美鈴 氏

当日回答いただいた全30問の質問のうち、ポイントを抜粋してお届けします。詳細はアーカイブ動画でご覧ください。

【自己理解・意思表示が苦手な生徒へのアプローチ】

——口数が少ない生徒や、「進路なんてなんでもいいです」と消極的な生徒への声かけの工夫は？

——やりたいことや学びたいことが「特にない」という生徒への声かけは？

消極的と言っていっても、いくつかパターンがあります。将来のイメージについて、「イメージはあるが言語化できない、または諦めている」のか、「本当にイメージがない」のか2択で分類し、アプローチしていきます。イメージがある場合は言語化するのを手伝ったり、実現をサポートできることを伝えたりします。多くの高校生は社会経験が乏しく、将来や働くイメージが具体的に持てていないので、大人になったときにどのような暮らしをしたいかを考えられるよう、具体的に問いかけていきます。その上で経済水準や職業選択の話をしていく方がイメージが湧きやすいようです。これについては、どのようなキャリアを描くかをクラス全体で扱うのもいいと思います。無気力に見える生徒の場合も一度その意見を受け止め、生活をシミュレーションするのを手伝ったり、先輩の事例を紹介することでイメージが具体的にできるようになっていきます。

やりたいことや学びたいことが「特にない」という生徒は非常に多いです。人生でこれだけは譲れないポイントを心理学では「価値」といいますが、これがはっきりしていない状態です。キーワードから自分の価値観に気づかせるようなグループワークを行うなどで自己理解が進みます。自分のことを考える主体は生徒ですが、難しいことです。身近な他者からの肯定的フィードバックが自己理解のモチベーションにもつながります。

『消極的・無気力・自己肯定感が低い生徒への声かけ』、『自己理解・やりたいことが見つからない生徒への声かけ』、『自己表現が苦手な生徒へのアプローチ』のテーマでは、他に次のような質問もいただきました。

いただいたご質問

- ・自己肯定感の低い生徒への声かけ
- ・強みを見つける声かけ、やりたいことを見つける声かけ
- ・自己表現をしない生徒へのアプローチの仕方 など

Q2 その他

自己肯定感の低い生徒への声かけ

A 回答

- ・ 言葉の理解：自己肯定感の低さは、ほぼ過去の経験が完結している状態が原因で起こる。過去の経験が完結しないままに生きていくと、過去の経験が邪魔になる。過去の経験を振り返り、過去の経験を肯定することで、自己肯定感が上がる。
- ・ 指導法：「いつか自信を持って生きてほしい」という言葉を伝える。過去の経験を振り返り、過去の経験を肯定することで、自己肯定感が上がる。

※この内容は、あくまでも参考です。実際の状況に応じて、適切な対応をお願いします。

自尊心を問題にしない
価値があるかどうかを判断しない。
「ただ、そのままの自分があるだけ」。

無条件の自尊心
何もできなくても、そのままの自分に
価値がある。（安定）

条件付き自尊心
「仕事で成功すれば」、「人から愛されれば」。
価値がある。（不安定）

※この内容は、あくまでも参考です。実際の状況に応じて、適切な対応をお願いします。

2/3

【生徒の主体性を育む面談・傾聴スキル】

——面談で教員からの説明が多くなりがちです。生徒から引き出したり、やる気にさせたり、さらにそれを継続させる言葉がけは？

——傾聴スキルの質を上げるために、日々心掛けるべきことは？

先生の側が、心の底から「自分は生徒の状況を分かっていない」と認識し、生徒から情報を聞き出す意識を強く持ってください。世代や置かれている環境が異なり、生徒自身の意思や状況を最も知っているのは生徒本人です。説明したり代弁したりしたくなるのをぐっと堪えて、「あなたのことはあなたが一番詳しい」と伝え、引き出してあげてください。

私たち大人は、高校生を前にするとどうしても「心の武装」をしてしまいます。言って聞かせなきゃ、コントロールしなきゃ、という構えを解除し、生徒のどのような主張に対しても、まずは説教などせず一旦共感する「修行」をしてください。話し合いの3ステップとして、生徒の目から見た状況や気持ちを深く聞き出し、その上で自分の気持ちや考えを伝え、解決に向かう具体策と一緒に検討していくことをおすすめします。

『面談力・傾聴スキルを高める』のテーマでは、他に次のような質問もいただきました。

いただいたご質問

- ・初見の生徒との面談における心がけ

【配慮が必要な生徒・不登校傾向の生徒への向き合い方】

——大学受験を目前にし、身体症状が出ている生徒への声かけは？

内科的な異常がないのに身体症状が出ているということは、その問題を受け止められるほど心が強くないという状況です。いきなり現実を突きつけて向き合える場合はそもそも身体症状に出ないので、最初はぼんやりとした抽象論から徐々に課題に目を向けさせる方が良いです。これらの生徒に対しては『北風と太陽』の太陽のように、「一緒に向き合おう」、「大丈夫だよ」と言ってあげて、大学受験などが怖いことではないと向き合えるようにしていきます。

不登校・長欠傾向の生徒の場合、クラス集団から離れていることでアイデンティティの確立が自然には難しくなる可能性や、情報共有の機会の不足が考えられます。面談の際には、その生徒の個性や周りとは比べての特徴を伝えると自己分析の手助けをすることができますし、「クラスのみんなも悩んでいる」といった情報提供も必要でしょう。

『不登校・欠席・心身の不調など、特別な配慮が必要な生徒への対応』のテーマでは、他に次のような質問もいただきました。

いただいたご質問

- ・長欠気味な生徒が徐々に登校したときの声掛けのポイント
- ・人前で声をかけることを嫌がる生徒に対する接し方

【進路・学力の悩みとギャップの乗り越え方】

- 進路が決まらない生徒や、志望校が現実離れしている生徒への声かけは？
- 自己肯定感が低く、自分の将来について全く考えられない生徒への声かけは？
- 模擬試験で点数が取れず悩んでいる生徒、部活動が忙しく思うように勉強時間が取れない生徒への声かけは？

進路は先生や親が決めるものではありませんが、親が主導権を握ってしまったり、生徒が人任せになってしまったりすることが多いのも事実です。大人は手伝いならできますが、最終決定をするのは本人です。「例え間違った決断だとしても自分で出した結論という納得感が必要」といったことを伝え、親に対してブレーキをかける必要もあります。親が決めた、先生に言われて決めた、ということの後悔してカウンセリングに来る大人もたくさんいますし、自分で決めた場合には間違った選択だったとしても後悔が少ないようです。

先生は審判ではなく、情報提供しながらシミュレーションの手助けをすることが効果的で、それしかできません。大学の情報を調べずに自分の希望を優先する傾向の生徒には、「志向」だけでなく「難易度」「実績」「経済面」といった比較する基準を伝え、○×△などで評価する方法を伝えることが考えられます。自己肯定感が低い生徒だと、自分の未来をポジティブに考えられず進路の話に後ろ向きになりがちで、将来のことも「どうせ無理」と考えがちです。その場合は、「こうはなりたくない」未来から聞き出すことや、小学生の頃の夢などから好きな原点を探ること、過去の経験で「どうせ無理」と考えていたことが覆った例、などの話から関わっていきます。生徒が好きなことも自己理解の材料です。「街づくりのゲームが好き」で終わらせず、「創造性」「空間把握」「非言語コミュニケーション」といった抽象概念に変換し、進路の選択肢へ広げていくことができます。

模擬試験などの点数が伸び悩んでいる場合、その原因を本人に分析させるアプローチが考えられます。学習の計画性という観点からは、出題範囲が広くて計画的に勉強しにくい、定型の問題は解けるが思考が硬くて応用問題が苦手、応用問題にかけると時間が足りなかった、などが考えられます。選択肢を提示して「あなたはどれで伸び悩んでいると思う？」と聞いてみます。学校生活が忙しくて物理的に勉強時間が足りない場合、集中力をあげる、教材を少なくして質を高める、隙間時間の活用、といった「単位時間あたりの学習量を増加」する戦略を伝えていきます。

『進路決定・受験にまつわる具体的な悩み』、『模試・合格への不安と向き合う生徒への声かけ』、『進路選択の希望とのギャップにどう向き合うか』のテーマでは、他に次のような質問もいただきました。

いただいたご質問

- ・生徒がリラックスして面接に入っていけるような声かけ
- ・生徒の希望と保護者の希望が合わない時の対応
- ・学科の種類や選び方が分からず面談が不安
- ・生活態度や学力的に、進学先でのその後の学習が厳しいと感じる場合の声かけ

など

Q27 学年主任

大学のブランドや実績を調べるより、自分の希望を優先していく生徒の進路選択傾向。どう考え、どうアドバイスすべきか

A 回答

大学の先の就職などの「目標」を把握したいやり方。しかし、「目標」はあっても実績という「手段」がないとたどりつけないのも事実であることも伝える。比較する基準についてこちらである程度示す。

	志向	難易度	実績	経済面
大学A	◎	△	×	△
大学B	△	○	○	○
大学C	○	○	△	◎

【教員の指導スタンスとチーム連携】

- 褒めることに徹しているが、単なる甘やかしになっていないか不安です…
- 担任団でなかなか統一が取れない

『教員自身の指導スタンスへの自信』、『保護者・チームとの連携における悩み』のテーマでは、他に次のような質問もいただきました。

いただいたご質問

- ・異動したばかりで前任校と勤務校の生徒の学力にギャップがある

心理学的には、「褒めれば大丈夫」などという考えが広まってしまうのは恐ろしいことなので、区別をしたいと思います。褒めるのが効果的なことは多くありますが、場合によります。「してほしい行動を教えて、その結果を褒める」ことは効果的です。褒めるというのは、本人が喜ぶことがなにか起こることです。それとセットでやらなければいけないのが、「してほしくない行動は、消去する」ことです。やってほしくない行動はそれ、というのを伝え、その行動をやっても得をしないことを示します。これがセットで必要です。

一方で、「して欲しい行動を教えない」こと、「して欲しい行動ではないのに妥協して褒める」、「して欲しくない行動を、助長する」といったことは単なる甘やかしになります。ずるをした方がうまくいった、ということ伝えてしまうことになります。

指導のスタンスを教員で統一するのは難しいことと思います。ある程度の指針は必要かもしれませんが、多少の差が出ることを前提に、持ち味を生かして役割分担をすることが考えられます。現実的なことを突きつける役割、フォローする役割でバランスをとるといったような形で、生徒を多面的に支えることができます。

アンケートご回答者限定の特典！

セミナー参加・アーカイブ視聴後にアンケートにご回答いただいた方は、中島先生への質問の全回答集をダウンロードいただけます。NOLTY プランナーズの Web サイトよりお申込みください。

NOLTY プランナーズ
アーカイブ視聴お申込み



校内指導の「絶対防衛ライン」を築く——データと AI で挑む進路指導

神奈川大学附属中・高等学校 中川 甲斐 先生（進路部長・国語科）

小林 直樹 先生（教務部次長・社会科）

はじめに 指導の属人化を防ぎ、学校全体で生徒を支えるために

神奈川大学附属中・高等学校は、1 学年約 220 名の中高一貫共学校です。多くの生徒が難関大学や海外大学など神奈川大学以外の進路希望を持っていて、学校としても少人数制授業や放課後自習室の開設などさまざまな学習支援を行っています。今年度からは PDCA サイクルの体現を意図して、中学 1 年生から高校 1 年生（高校 2 年生以上は希望者）に NOLTY スコア手帳を導入しました。

安心してプログラムに挑戦するための絶対的な学力

01 学習システム



対象: 中学
● 少人数制授業
Weekly Test

- 基礎学力の徹底
- 未来を導べる学力
- 教わるから学ぶへの変化

02 自己管理



対象: 中1-高1
● NOLTYスコア手帳

- 自律のサポート
- 振り返りの習慣化
- 教員との対話

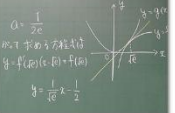
03 学び合える自習室



対象: 中学・高校
● 中1-中2 19:00まで
中3-高1 20:00まで
高2-高3 21:00まで

- 教え合いの部屋
- TAのサポート
- 進路相談

04 充実した講習



対象: 全学年
● 通年・長期休暇

- 様々な講座設定
- 苦手をとことんサポート
- 経験豊富な教員

本校が重視する「生徒が主役の三者面談（SSS）」も特徴的な取り組みです。生徒が保護者に対してプレゼンテーションをする中で、より高次な学びへと進んでいく力をつけること、保護者と担任が生徒の成長を確認し、生徒の学びを支援することを目的として行っています。

学校組織として指導を進める中では、大きな課題に直面していました。それは教員の年齢分布のいびつさからくる「経験知の断絶」です。開校から年数が経ち、経験の少ない若手教員が増加する中で、誰が担当しても「最低ここまでは指導できる」という、「指導の絶対防衛ライン」を作る必要がありました。こうした背景から、「学びみらい PASS」と「副担任 mirAI」を導入しました。

データの可視化と AI による対話支援

「学びみらい PASS」ではリテラシー（問題解決力）とコンピテンシー（行動特性）合わせて 13 の力を可視化することができます。結果をもとに、この子はこういう特徴がある、伸びがあるということをベースに話をすれば、経験値のない先生でも準備時間を減らし、データに基づく指導をすることができます。マニュアルを求めがちな若手教員にも役立っている様子です。さらに、教員サマリーから「まず先に面談すべき生徒」を客観的に炙り出すことが可能になりました。「弱点」ではなく「伸びしろ」と捉えるような声掛け例も共有され、教員間の指導のムラが大幅に改善されました。

「副担任 mirAI」も、教員の経験値が必要な志望理由書の添削指導のムラの改善や、近年の総合型選抜の受験者数の増加への対応をねらいに導入しました。AI がインタラクティブに生徒の考えを引き出し、志望理由書の言語化を強力にサポートしてくれるようになりました。ある程度固まった状態で持ってきてくれるのと、システム上で確認できることで、指導のやりやすさを感じます。懸念としては、ワンパターンのものになっている生徒もいるので、本人の思いとできあがったものにずれがないかを気にして、そこからさらに深掘りをするということを生徒と共通認識を持ちながら進める必要がありそうです。

昨年度、「副担任 mirAI」を使ってみた生徒の入試結果ですが、東京科学大学、早稲田大学など、多くの合格をいただくことができました。「学びみらい PASS」の結果を見ながら自分の強みを認識し、「副担任 mirAI」でやりとりをしながら例えば部活動のエピソードを結び付けることができました。海外大学進学に利用した生徒では、奨学金を申請する際に利用し、対話をしながら自分の将来が明確になったということを話してくれました。

アンケートでは、生徒の 96%が「使いやすかった」と回答し、82%が「自分の強みを把握できたので AI 対話に回答しやすかった」と感じており、「自分だけでは深掘りできない所までできた」「返信がすぐ返ってきて考えが深まった」といった声が寄せられました。

副担任mirAI利用者

◆男子：11名 女子：21名 計：32名

◆主な受験校

東京大（工）
東北大（理）
東京科学大（物質理工）
東京農工大（農）
東京電機大（情報理工）
筑波大学（人間学群）
横浜国立大（教育・理工）
横浜国立大（医／看護）
千葉大（理工・薬）
高知大（医／医）

早稲田大（文化構想・スポーツ科）
明治大（理工・情報コミュニケーション）
法政大（情報科） 多摩美術大（美術）
東京薬科大（薬） 皇薬科大（薬）
日本医科大（医療健） 同志社（商）
神奈川大
西オーストラリア大

※赤字が合格、下線は指定校

今後に向けて データ蓄積と指導ノウハウの確立へ

今後は、志望理由書作成という「学習者レベル」の活用にとどまらず、教員・指導者レベルでの分析をさらに進めていきます。これまで、文理選択の際に将来を考えた「志望理由書」に取り組んで提出させていましたが、紙ベースだと活用に難しさもあります。AI 対話でストックされた記入内容、MMP のスコアのパターン、模試の結果や実際の進学結果をクロス分析することで、「生徒のタイプに応じた最適な指導方法・動機付けアプローチ」の確立を目指し、現在はデータを蓄積する段階です。パターンやタイプ別に傾向を見ることができれば、声かけの仕方が変わるといいますし、先輩の事例を元に見通しを持てるような指導できれば、例えば共通テストで失敗してしまったときにも立て直しやすくなるなど、結果が変わってくるのではないかと考えています。アセスメントとテクノロジーで教員を支え、生徒の自己管理力の向上、振り返りの習慣化、コミュニケーション促進を目指した取り組みを充実させ、よりパーソナルな指導を実現させていきたいと考えています。